

平成19年8月30日

## ダム守同心情報連絡票(第13号)

この情報連絡票は、灰塚ダムのダム守同心の方々並びに関係者の皆様に三次河川国道事務所灰塚ダム管理支所から灰塚ダム及びハイヅカ湖に関する情報をお届けするものです。

### 1. 実りの秋に向け、灰塚ダムもがんばっています。

猛暑が続き、農作物の被害を懸念する記事を目にするようになってきましたが、灰塚ダムへ流入する上下川、田総川の水量も減ってきています。

上下川を流れる水は河川に生息する動植物を育むとともに、地域の水田へのかんがい用水などとして利用されています。

魚類など河川の動植物が生息し、かんがい用水など必要な取水をするために必要な水量として約 2m<sup>3</sup>/s 程度の流量が必要ですが、ダムへの流入水量は8月9日から2m<sup>3</sup>/s を下回り、1m<sup>3</sup>/s を下回る日も生じています。8月22日の雨で多少回復しましたが、8月26日以降は再び2m<sup>3</sup>/s を下回り、ダムが無ければ稲の実り前に必要なかんがい用水も不足する危険性があるような状況となっています。

このような状況の中、下流での実りと生物の生息を支えるため、灰塚ダムから必要な水量を補給しています。

今日現在の貯水率は89%で、十分な水を貯めることができますので、今のところ灰塚ダム下流では渇水の心配はありません。

### 2. 高濃度酸素水による水質保全の実験をしています。

河川の水温も上昇し、30℃を超える日も生じています。猛暑が続くと植物プランクトンの増殖に必要な日光、水温、栄養分の条件が整い増殖しやすい状況となりますがハイヅカ湖では水中 10m 付近に空気を送り込み水を循環させる「バツ気装置」、選択取水設備などを用いてハイヅカ湖及び放流水の水質保全に努めています。

更に、湖底環境を改善する新たな技術として高濃度酸素水による水質保全実験を実施しています。

湖底では酸素が少ない「貧酸素」な状況となり、リンなどの汚濁負荷が溶け出しやすくなります。この実験は湖底の水に高濃度の酸素を溶解させ、貧酸素の解消、リンなどの溶出抑制の効果を確認しようとするものです。

効果等については今後検討することとなりますが、ダムサイト付近の湖底の

貧酸素が解消できていることを確認しています。

### 3. ライトアップをします。

9月2日に「三次市結婚コーディネーター事業」としてハイツカ湖畔の森やハイツカ湖などを会場として若者の出会いの企画が開催されます。

これに合わせて、灰塚ダム管理支所では、森と湖に親しむ旬間、盆などに実施して好評だったダム堤体と噴水のライトアップをします。

沢山の若者のすてきな出会いを祈念しています。

### 4. 鉄くずの運搬が行われます。

9月4日から27日の期間で、平林金属株式会社さんが吉舎町小社(おごそ)から鉄くずの搬出が行われます。

大型トレーラーなどの車両に積載し県道梶田三良坂線を通って岡山市へと運搬される予定です。

関係法令、道路・交通管理者の指示に従い安全に運搬がなされると思いますが、灰塚ダム管理支所でもパトロール等で状況確認に努めることとしていきます。お気づきの点等ありましたら一報をお願いします。

### 5. 本号の最後に

ゴミや水質など環境に関してダム守同心の方々をはじめ様々な方々から貴重な情報をいただきありがとうございます。

いただいた情報を基に適切な管理、情報発信・共有化に努めたいと考えております。

今後とも引き続きよろしく申し上げます。

◇ 問い合わせ等連絡先 ◇

国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所

支所長 今岡 俊和 (imaoka-t87mb@cgr.mlit.go.jp)

事務係長 片山 直行

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

電話:0824-44-4360(代) FAX:0824-44-3544